

足利幕府 系譜

足利 將軍 初代 尊氏
 3代 義滿 (金閣寺殿)
 室町 將軍 4代 義持
 8代 義政 (銀閣寺殿)
 9代 義尚 (粟東 鈎 御所 薨去)

10代	義隆 (澁川公方) (阿波公方)
11代	義隆 (因山城口没)
12代	義晴 (近江公方) (因山公方) 因山城口誕生

13代 義輝
 14代 義榮
 15代 義昭 足利將軍家 滅亡

政策	○ 居住所	(裁判的)
	○ 政 所	(政治的)
	○ 侍 所	(軍事的)

將軍補佐 筆頭管領 斯波
 管領 細川
 管領 富山

↓
 守護

永茎 岡山の由来

永茎の岡 万葉集 風光明媚
其の昔 巨勢金風が写生風 目的で描きかけた時
余りの絶景に筆を落した 筆の事 永茎と言ふ

岡山は龜山と言われ城で"はなは湖上交通の
重要な監視所

1508年

此の頃 京の都 応仁の乱 影響 大有り
將軍同志の戦い 管領も絡む(細川)
(細川 山名宗全)

追われた 11代 義澄 朽木村 → 岡山へ入る

此の時 九里氏は 奉迎の気持ちで"迎え入れた
歌 九里氏は 儒学 精神を持って
奉迎

・追われた者を匿まうと追手が来り 難
危いと察しながら 目上は尊 敬の念
困った層々には救済心を持って迎ふ奉迎

1509年 九里浄椿

幕府軍(足利義植)の遊軍攻撃と察し
直ちに防御目的で 監視所を城砦に着手(突貫工事)

永茎岡山城 築城

同年 足利義植 岡山城 総攻撃 命令

1510年

義植軍(4000人)と迎撃戦

九里軍(500人足らず)

結果 壊

九里軍が一時義植軍を滅

勝因

1. 帯教に基づいた戦法(フリスケイソ^{活用})
逆に幕府軍は湖上戦 ^{地元の利} 不利

2. 領民の協力 農民弓隊 水軍
野村水軍

京の都

幕府軍の予期なき敗戦に大驚き
「九里恐るべし」琵琶湖の狼と称された。

1520年

逃げ帰った幕府軍 再編成 再度岡山城
攻撃 包囲作戦

岡山城 包囲されると全2途が断たれる急変事態
(籠城) 食料切欠
行動不可

九里軍団 各地分隊にて戦う

○ の戦い
○ "
○ "
○ "

此の賜 岡山城内
足利 11代 義澄 没 1511年
龜王丸 誕生 のちの 1511年
12代 義晴

幕府は 九里の 攻略) に更に総攻撃
龜王丸 起す

此の時の岡山城、九里浄橋は
管領 守護の策略 謀略 騙(巻き込まれ)
大混乱

九里浄橋は龜王丸 護るため 表現不可な程 大苦勞

各地での戦った家臣 帰る城なく 自刃 自決

大激戦の末 城なく落城

1521年

岡山城で 全山を龜王丸が 12代 將軍に
就任 報を受けた九里浄橋は

「此程 喜ばしい事 此の成し 此の

私の役目は終った」の言葉の了

「この城の落城 とき どのよめ 伝えまじき
候」

の遺言を残し 12月 雪 龜王丸 死す 果つた
城内で 自刃

成澤和道 記

水荃 岡山城 良史

東京新橋演舞場にて舞台化され
観客の涙を誘った
題名「浮城」

テレビ放送 TBSかMBSにて全国放送された。

プロデューサーは演舞場社長 岡副正吾
舞台演出 脚本 成澤昌茂

2名来播 岡山城跡にて撮影は。
「滅びの美学」と称した大号泣

其の後 NHKより

ストーリー性 大作に価値十分で

主演 阪東玉三郎 起用案 剣の打診

当時 近江人播市は「さゆめか」理由で断った

NHKの大作と言えは「大河ドラマ」推測され
残念話で有り。

成澤和道 記